特252
895

日本圖書館協會講演集

第六輯

始

特252
896

日本圖書館協會講演集

第六輯

社團法人 日本圖書館協會

目次

一、挨　拶……松本喜一……一
一、人間の能力に關する斷想……暉峻義等……五
一、歐米ところどころ……高柳賢三……二五

挨拶

社團法人 日本圖書館協會理事長　松本喜一

先刻開會の際に、文部省の清水成人教育課長の御挨拶がございまして、何も特に附加へることはないのでありますが、今回の此の催しが文部省並に日本圖書館協會の協同主催になつて居りますので、協會を代表して一言御挨拶を致すやうにと云ふことで、此の壇に立ちました次第であります。私共の此の圖書館記念日は本年で第七回目に當るのであります。從來協會だけで年々此の催しを致して居つたのでありますが、昨年から文部省が此の記念日に多大の援助を與へられまして、盛大な講演會を開くことに相成りましたのであります。本年も續いて力强き御援助の下に、此の會が開かれることになりましたので、私共は非常に感謝を致して居るのであります。今日は生憎天候が宜しくないのでありますが、斯く多數の方々が御參集下さいまして、此の記念日の催しを斯く盛大に行ふことが出來ましたのは、私共の洵に感謝措く能はざる所であります。此の記念講演會の爲に、暉峻博士、高柳教授が御多用の際を御出席下さいまして、先刻來極めて有益な御話を伺はせて戴きましたのは、洵に有難い事に思ふのであります。續いて又平井先生を始め伊藤、宅兩先生が此處にお出

ましになりまして、演奏をして下さると云ふことで、錦上花を添へると云ふことになりましたのは、私共に取りましては、洵に今日は良い記念日であり、感謝致して居るのであります。

先刻清水課長からお話がございました通り、昭和六年の本月本日　陛下の特別な思召に依りまして、帝國圖書館長としてお召しを拜しました私は、御前に於て圖書館に關する御進講を奉仕致したのであります。私に取りましては、無上の光榮でありますことは申す迄もないのでありますが、當時私共の同業の方々は、是は我等の記念せねばならぬ斯界の榮譽であると云ふことで、此の日を圖書館記念日と定められることになつたのであります。斯樣な事を私の口から申述べますことは、如何にも恐懼の至に堪へぬ次第でありますが、當日午後一時半宮中に參內した私は午後二時　陛下に拜謁仰付けられまして、一時間余に亘つて御進講を奉仕し、更に種々の御下問を拜しまして、具さに奉答を致し、前後二時間の長い間、咫尺の間に龍顏を拜し奉つた事はまことに恐懼の至に堪へませぬ。陛下が此の圖書館の問題に付きまして、特に御進講奉仕の機會を賜りましたことは、此の圖書館の事業が、我國に於きましては、歐米の先進國に比較致しますと、遺憾ながら遜色があるのでありまして、此の事業を如何にして、進展せしむべきかに就いて責任を痛感致して居ります際に、特に叡慮を拜し奉つたことは殊に恐懼感激の至に堪へませぬ次第であります。其の際　陛下に於かせられましては我が日本の女性が男子に比較して、如何なる割合に書物を讀んで居るかと云ふ點に關して御下問あらせられたのでありましたが、文明國の圖書館へ行つて見ますと、女性の閲覽者と云ふのが非常に多いのであります。合衆國などでは圖書館で見ます閲覽者の大多數は女性であるやうに見受けられるのであります。

私は一昨年事變の直前に支那に參りまして、北京の國立圖書館を觀たのでありますが、是は亞米利加の寄附に依つて出來ました圖書館で、建築の壯麗なこと、規模の雄大なことは、日本の帝國圖書館などは比較にならぬ程で、優れた設備が整つて居りましたが、其の中で婦人の書物を讀んで居る姿は認めなかつたのであります。此の女性の教養の如何に依つて一國の文化と云ふものを卜することが出來るやうな心持が致したのでありますが、斯う云ふ點から見ますと、我が日本の女性はまだ圖書館の十分なる利用者であると云ふことは出來ないのであります。一國の文化が高まつて參ります爲には、是は國民的でなくてはならぬのでありまして、其の國民の半ばを占めます所の女性が讀書人であり知識人であることが妻として、母として、さうして此の文化日本の將來を開拓して參ります上に極めて必要なことであることを感ずるのであります。私共が斯樣な機會を年々に記念致すことも、どうか斯う云ふ機會を通して、國民全體がもう少し此の讀書の問題に關心を有たれまして、且つ讀み、且つ考へることに依つて我が文化日本の立場を一段と輝きのあるものにして行きたいと云ふ念願から起つて居るのに他ならぬのであります。私が御進講を奉仕致しましたのは、平和の時代でありましたが、今日此の記念日を記念致す時に方りましては、御承知の如く洵に重大なる非常時局に際會して居りまして、戰爭其のものの目的を貫徹致します爲にも、亦戰後に來る所の所

謂東亞の新建設に對處して參ります爲にも、指導民族としての我國の國民文化が、一段と高まり進んだものになつて行かなければならないのでありまして、左樣な點から考へますと、私共圖書館人の任務は特に重大さを加へ來つたことを痛感致すのであります。然しながら今日は、如何なる事業も唯其の事に携る者だけの事業ではないのであります。圖書館事業の如きも、單に圖書館人の事業ではないのであります。之を高め、之を進めて參ります爲には、どう致しましても國民全體の協力に俟たねばならぬのであります。どうか斯う云ふ會合に御參加下さいました皆樣方は他の多くの人々に率先致されまして、將來此の事業が進展致しますやうに、力强き御援助を賜らんことを御願ひ致す次第であります。今日斯の如き盛んな會を催し、此意義深き記念日を記念することが出來ましたのは、一に御來會各位の御厚情の賜物でありまして、主催者と致しまして、深く厚く御禮を申上げる次第であります。是から音樂並に映畫がございますので、どうか最後まで御覽になり、お聽き下さいまして、此の記念日を私共と共に御記念下さることが出來ましたならば、洵に有難き仕合せに存ずるのであります。簡單でありますが御挨拶を申上げました次第であります。（拍手）

人間の能力に關する斷想

日本勞働科學研究所長
醫學博士　暉峻義等

時局が進行致すに付きまして、國民の精神力、國民の體力、國民の生產力、或は國民の文化向上能力、創造力、總て「力」の問題が非常に國民の關心事になつて來たのであります。併し人間の持つて居る力とは何んであるかと云ふことに就て、まだ十分認識されてゐないやうに思ふのであります。それで今日は國民の能力、人間の力と云ふものに就て、多少是までの科學的な研究の基礎に立つてお話を申上げて見たいと思ふのであります。

人間の力は無上なものではありませぬ、完全なものでもありませぬ。又人間の能力を、最高なものだと云ふのでもないのであります。併し人間の能力は物に値打を付ける源であります。物を價値あらしめる、物を創造する、又色々生活上に起つて來る問題に就て之を考へ、或は自分の精神の中に、自然界の現象を意識する。斯う云ふ能力があるものであるから、時局が如何に進行致しましても、此の能力を培ひ、此の能力をしつかり發展せしめて行きますることが、國家の進運を極めて正しく進行致します上に、非常に大切なものであります。從つて國民の能力は、物資よりも、經濟よ

りも、モット根本的なものであると思ふのであります。人間の能力を考へますと、先づ第一に人間が殖えて行く能力と云ふものを考へる必要があるのであります。如何に優秀な國民でも、如何に優れた文化を持つて居る國民でも、其國民の數が殖えなくて、段々國民の頭數が減少致しますやうでは、是はその民族の滅亡を意味し國家の前途に取りまして不吉な前徴であつて、頗る遺憾なことになるのであります。さう云ふ意味から致しますと、人間が增加する能力、卽ち人間の增殖能力と云ふものが、非常に大切なものとして採上げられなくてはならぬのであります。併し增殖能力と云ふのは、人間だけにあるのではありませぬ。生物界に皆存在する能力であります。併し生物界の增殖能力と人間の持つて居ります人間增殖能力との相違點は、人間は增殖の爲にのみ生きて居るのではないと云ふことであります。動物でありましても、植物でありましても、それ等は殆ど種の保存、其種族の保存の爲に生きて居ると云つても宜いのであります。けれども、人間では、唯子供を生んで、頭數が殖えて行くと云ふことだけが、增殖能力の最も大切な目標ではないのであります。特に日本民族と致しましては、數が殖えるだけではならないのでありまして、立派な國民的自覺を持つた立派な國民に生長を遂げなくては、國民的自覺のない生物が幾ら殖えましても、國家の繁榮に取りましては、役に立たないと思ふのであります。其の國民的自覺の內容と致しまして、玆に採上げなくてはならぬと思ひますのは、自己の身體と精神とを父祖から傳承する所の、祖先から受繼いだ自己以上に鍛上げて、之を立派なものに仕上げる能力、之を發育能力と申上げませう。或は發育の要求と申しても宜しい、さう云ふものを日本國民として、或は人間として持つて居なければならぬと云ふことであります。又物に値打を附け、生命のない物質に人間の力を加へて之を經濟的に價値のあるものにしたい、或は生命のないあらゆる物質に人間の知識と技術を加へることに依りまして、立派な國民的な文化財產に仕上げたい、是が人間の能力としては非常に大切なものであります。斯う云ふ能力は、多分に遺傳的なものでありまして、民族が祖先から子々孫々に傳へて行く國民的資質の中に含まれて居るものであります。斯う云ふ能力が發達して參りますと、種の保存、民族を保存する爲の相續能力と云ふものは、間々否定される場合があるのであります。卽ち優れた才能を持つて居る人には往々にしてその種が絕える、天才には凡人の持つて居りますやうな增殖能力がないと言はれて來たのであります。卽ち人間は、自分の生活を高め、自分の文化を高める爲に役に立つ他の能力の爲に、人間が元から持つて居る「種を保存しようと云ふ能力」が弱くなつて行くと云ふ事が、今まで色々な材料の上に證明されて居るのであります。でありますから天才、非常に優れた人間の能力の多數の實現は、吾々之を望んでも得られることではなく、またそう澤山の天才の輩出は事實あり得ない。それと同時に吾々の忘れてならないものは、豐かな能力を持つて居る多數の國民の實現と云ふことであらうと思ふのであります。今日まで、學理上で考へられて居りまする、一人の婦人から生れる子供の數の最高は二十人、卽ち一人の女性から生れる人間の子供の數は、最高二十人だらうと云ふのが科學的の推定であります。併し實際二十人の子供を持ち得た婦人

は、今迄實際上には存在致して居りませぬ。今迄あり得た所の實際上の姙娠能力の最も高い人は十三四人で、若し總ての婦人が十四人の子供を持ち得るものとしたならば、日本民族は天孫降臨後間もなく數百年にして、或は日本全國のみならず大陸の方にまでもいつぱいになる位に殖えてゐたかも知れないのであります。又イヴの實現からして基督が誕生する迄に、もう既に地球上には人間が溢れて居るやうなことになつたかもしれませぬ。

併し人間の增加能力と云ふものは、さう云ふ風に中々急速には進展しないのであります。精々此の一人の婦人から最高十四人の出產率を以て生れて來るのであります。けれども今日の所では、之を表面的に申上げることは出來ませぬが、日本の人口の統計から考へますと、一年に千人に付て十三人宛殖えて居るのであります。詰り一・三%宛人間が殖えて行きます。國々に依つて此の增加能力、人間の增殖能力と云ふものは相違があるのでありますが、文化が高いと考へられた國程、其增加能力が低くして、まだ其生活が原始的の範圍であると考へられる民族程、其增加能力が高いのであります。日本は相當高い文化を持つて居ながら、而も其の增殖能力に於ては西歐の文明諸國に比しまして、可なり高い增殖能力を持つて居ることは、日本民族の一つの誇として考へて宜からうと思ふのであります。若し人間の增殖能力が一%宛年々殖えるものと考へますと、人口が二倍になります爲には七百年掛るのであります。現在九千萬の人口が一億八千萬になる爲には七百年掛る、若し五%宛殖えるものと考へますと、大體四百年掛るのであります。併し今まで人口の發展史から考へますと、日本民族の增加率も、そんな計算で吾々が推定致します程早くは殖えて參りませぬ。其處に色々の障碍がある。例へば全體的に考へますと飢饉でありますとか、戰爭でありますとか、或は傳染病でありますとか、云ふものが流行しますと、人口が全體的に非常に減ります。增加率が下ります。又個人的に、部分的にではありますけれども生活が困難になつて國民の多數の間に貧困が增加して、之に依つて人爲的な出產制限が行はれるやうになりますと、個人々々の出產能力が減退したと云ふ例は今までも少くないのであります。斯う云ふ風な、增殖能力と云ふ側から考へますと、そこに人間の增殖能力と云ふものは、唯生物學的な要素だけではなしに、其外に今申しますやうな、自然的な或は社會的な影響が民族に作用を致しまして、其民族の持つて居る增加能力を或は高め、或は低めることが往々あり得るのでありますが故に、此問題に就ては非常に吾々は警戒をしなければならぬと思ひますし、此の增加能力を極めて正しく、而も最も國家の繁榮に寄與することが出來るやうに、之を保持することに努めて行かなければならぬと思ふのであります。

次に人間の能力として御考を願ひたいと思ひますのは、人間が還境に適合する能力を持つて居ると云ふことに就てであります。德川の末期までは、日本民族は殆ど日本群島の中に生活をして居つたのであります。太閤さんでありますとか、山田長政でありますとか、或は色々な方が、偶には海外へ大いに進出した事がありますけれども、わが民族は、全體と致しましては、殆ど海外進出をする機會がなかつたと言つても差支がないと思ふのであります。其の爲に、西洋の學者は、日本民族

と云ふものは一體氣候還境に適應する能力が非常に少いと云ふことを申して居ります。南米へ參りましても、墨西哥へ參りましても、或は南洋諸島への日本人の移住の歷史は、總て失敗の歷史である。日本民族は熱帶への適應能力に缺けて居ると云ふことを申して居ります。又滿洲事變に至りますまでの日本の滿洲經營の跡を見まして、日本民族は北の方の寒い土地にも其適應能力を持つてゐないもので、事實滿鐵の三十年の歷史に於きまして、日本人は殆ど二十萬の人口を持續してゐたと言つて差支ないのであります。それ以上殖えなかつた、其歷史を見まして、やはり日本の人間は南に惡い如く、北の方の寒帶の氣候に對しても適應する能力がないものである。之は日本人が二千年の間日本群島と云ふ溫暖な氣候帶の中に蟠居して居つたが爲であると云ふのであります。蒙古種族である支那人が南にも北にも十分に其の民族的の適應能力を示して居るに拘らず、日本人は其の歷史的過程が然らしめた爲に、殆ど南へ對しても、北に對しても、熱帶にも寒帶にも其適應能力を持たない民族になつてしまつたのである、と云ふことを最近に獨逸の生理學者が申して居るのであります。併し之は謬見であると私は思ふのであります。今迄日本の民族が南に發展し得なかつたと云ふことに就きましては、先程申上げますやうな、單に生物學的な適應能力、適應條件だけから判斷することは出來ないと思ふのであります。何故ならば、今まで熱帶の方に參りました日本民族は、多くは勞働者であります。孤立無緣、何等國家の有力な支持が得られず、何等、組織的支持を得ないで、孤軍奮鬪、南の熱帶に入り込んで、其生活を開拓したのが、南に對する移民諸君の大部分であつたと言つても宜いのであります。又滿洲殊に北滿の方を考へて見ましても、成程滿鐵と云ふ大きな會社がありまして、國策的に經營されて居たのであるけれども、其の經濟生活、其の社會生活、日本人の北滿――滿洲に於ける生活條件は政治的には、極めて限局されて居たのであります。其の限局されたる生活條件の中に、ヤット二十萬の人口を支持し得たと云ふのが過去の事實であつたのでありますけれども、滿洲事變に依りまして、全然政治經濟が變化し、これに伴つて日本人の彼の地に於ける生活條件が變化したのであります。社會的、政治的な或は文化的な條件が變化して來ますと、今まで日本人民族の血の中に、肉の中に傳つて居りました所の生理的な、適應能力が始めて正しく發揮し得られる所の機會を持つことが出來たのだと私は考へるのであります。是から本當に日本人の熱帶への、或は北滿、寒帶地への適應能力が正しく發揮し得られる狀態になるのであると考へて宜からうと思ふのであります。此の氣候風土に對する人間の適應能力は、國民的性格の形成に對しまして非常に重要なものであることは、昔から生物學の方面でも、或は心理學の方面でも唱へられて來た事であります。日本に於きましても御承知の通り、最明寺禪公が著はしたと言はれて居ります、人國記の中に「蓋人情は風水に因れり。此編を人國記と題す。人情國土の意にや、しかるに其風土の形勝を知らざれば、其因所を辨ことなし。」と云ふことが書いてあるのであります。是は今日の知識から云へば、頗る非科學的であります。概念的であります。けれども、風土が人を作る、風土が人間の能力を培ふ、人間の性格を作上げる。日本と云ふ一つの風土、日本國民として

の性格を作上げて行くと云ふことに就きましては、モウずつと以前から注意されてゐたと考へられなくてはならぬのであります。之を最近の科學的の研究の結果に對照して考へて見ますと、先づ第一に考へられますのは、氣候風土――風土と云ふ言葉が一體何んであるかと云ふことでありますが、土地空氣、空氣の寒い熱い、それから乾燥して居るか濕つて居るか、風、光線、それから土地が高いか低いか、或は大陸であるか海に臨んで居る土地であるか、是等は風土的環境と斯う云ふ言葉で現はされるのであります。其中に住んで居る人間が、是ら色々の氣象條件、或は土地の條件から受けます所の作用は、個々別々のものではなくして、是等の總ての要件が全體として人間に作用する事から、色々の相違が起つて來るものと考へなくてはならぬのであります。又此の頃では、此外に空氣の電氣現象でありますとか、或は空氣のイオン狀態でありますとか云ふことが、段々研究されるやうになつて來たのであります。是等は總ての影響、因子の綜合作用が人間の體質を作つて行き、人間の性格を作つて行き、特殊なる氣候風土を持つて居る國民に、特殊な國民的性格を作上げることに作用をして來るのであります。けれども、人間は、其住んで居ります氣候風土から影響されるのであるけれども、又人間は自分の能力で以て自分の力、自分の智識で以て、環境を變へて行くことが出來るのであります。吾々は日本の風土の中に住んで居る、其風土から影響されて日本人に共通な一つの性格を作上げて行くのであります。けれども、同時に吾々の知能が進むに從つて環境を改變する能力が出來て來るのであります。外からばかり影響されて國民的資質が出來るのではなくして、內から環境を變へて、變つた環境に又新らしい適應能力を自分の中に作上げて行くと云ふやうな複雜な微妙な力を人間は持つて居るものなのであります。

今まで人間が登つた最高峰は二萬五千呎の高さを持つて居る印度のカルメットであります。又二萬八千呎のエベレストの最高峰を征服して居ります。併しエベレストが餘り嶮路でない場合には之に登る爲には何等さう特別な技術を要しない、詰り登る者に酸素を吸はせますとか、さう云ふ特別な技術を施さないで登れますが、二萬九千呎以上になると、最早酸素を持たないでは登れないのであります。高い所へ素手で登るのは二萬九千呎までと云ふことになるのであります。それ以上になると、人間の知識で作上げた酸素と云ふ一つの空氣中の物質を作り出して、之を以て二萬九千呎以上に登ることが出來る。又ヒマラヤ山に於ては二萬六千呎の所までは鳥が棲んで居ると云ふ報告がある。獸類は一般には食物が得られる高さ以上には棲んでゐない、其の動物の食ふ食物のある高さ以下でなければ棲んで居ない。それでは耕地のあるやうな、百姓をする或は農業に附隨した生產をすることの出來る最も高い高さはと云ふと、一萬五千呎、之は文獻に依りますと、西藏のコルゾク地方と云ふことでありますが、是は世界で一番高い耕地のある地方であります。併し山に登りますとか、一時的に何處か高い所に居ると云ふことは、極く短い間のことでありまして、長い間住むと云ふことになりますと、又違つて來る。是まで一番高い所で一番長く暮しましたのが智利の國のキヤルチヤと云ふ所にキャンプ村が出來た、其キャンプ村は、人間はどれ位の高さに住むことが出來

るであらうかと云ふことを生理學的に研究しようと云ふので、キャンプ村が作られた。此のキャンプ村は一萬八千呎の高さである。此の一萬八千呎の高さで六人の人間が六箇月暮したのであります。併し六箇月目には皆ひどい頭痛を起してしまつて、山から降つたと云ふのが今迄の記錄で一番高い所に一番長く住んだ記錄であります。併し是は足で登つた高さでありますが、人間は航空機を造出した。工業技術に依り、物理、理學の進歩に依つて、又理學の進歩が招來致しました技術の進歩に依りまして、航空機を造つた。航空機が出來ると、今度は高い空が人間の新しい環境になつて來る。今までは高空などと云ふ、空の中などと云ふことは吾々の環境ではなかつたのであります。航空機が出來上ると、新たに高空が吾々の生活環境として考へられなくてはならなくなつたのであります。此の航空機に依つて人間は高い空まで、上り得る所まで上ることが出來る能力を持つたと言はなければならぬのであります。詰り人間は自分の知識の能力を高めることに依つて環境を變へて行く、卽ち低地で住んだ者が高空に住むやうな能力を持つて行く、其の高空に住むことの出來る能力は又人間に新しい環境の創造でありますと同時に、新しい生活能力の創造であると云つて差支がないのであります。

一九三七年に英吉利の飛行家が五萬三千九百三十七呎と云ふ高い所まで航空機で上りました。それ以前には伊太利の記錄があります。それは五萬千三百六十二呎と云ふのでありますが、此の英吉利の飛行機の最高の記錄でありまする五萬三千九百三十七呎の高度に上ります爲には、是は無論裸體では上れなかつたのであります。パイロットは高空の低氣壓に對します爲に特別な着物を着ます。非常な高空に上りますと氣壓が低くなりますから、其氣壓に對抗する爲に、着る着物、又高空は氣溫度が非常に下りまして、零下四十度などと云ふ冷たい空氣を呼吸しなければならぬ、さう云ふ空氣を呼吸する爲のパイプがある。其パイプの口が氷で塞らぬ爲に、特殊の設備を致します。さう云ふ武器を附けて始めて斯う云ふ高い所へ上ることが出來たのであります。高空にゐると、アルカロージスと云ふ一つの病的な生理狀態が出來る。アルカロージスが出來ると、呼吸が非常に困難になつて、飛行不可能となりますからアルカロージスと云ふ生理狀態を防ぐ爲に、豫め鹽酸アムモニアと云ふ藥を飲む、其藥を飲んで置いて高空に上りますと、アルカロージスの發生が阻まれますから、高空に長く堪へると云ふことが出來るのであります。是も藥を飲んで、新しい環境に長く滯在出來ると云ふ一つの生活條件を人間は附加することが出來るのであります。

我國の志摩國へ行きますと、澤山海女が居る。さうして彼女等は二十五米と云ふと大方百尺でありますが、此百尺の海底に潛る、御承知の通り水は十米の深さになるに從て一氣壓だけ殖える、だから二十五米の海の底は三氣壓增壓になる。卽ち非常な水の壓力を以て締めつけるのであります。日本の海女は此の百尺の深海に於て絕息して約三分の間、三氣壓の高壓に對抗しながら作業をすることが出來る。其時の肺臟の空氣を採つて見ますと、肺臟の空氣の中には酸素が三%しか殘つてゐない、此の三%だけ酸素を含んで居る空氣を鳥が呼吸しますと、直ぐに痙攣を起して死んでしまひ

ます。併し海女は百尺の深海に肺臟の中の空氣の酸素含量が三%になるまで、潑剌として深海作業を續けることが出來て居るのであります。是は人間の最大の能力を利用して、海女と云ふ仕事を進めて居るのであります。此の百尺の海底に達する爲に、降る時も昇る時も十七秒間であります。海面から海の底に降りて行くのが十七秒、海底から獲物を採つて海の上へ昇つて來るのが十七秒かゝります。此の十七秒で二十五米を昇降する速度は一體何處から來るのかと云ふと、水泳をやつた方は經驗があるだらうと思ひますが、海の底へ沈むと云ふことは段々壓力の高い所へ沈んで行くのでありますから、一番痛手を受けるのは鼓膜であります。鼓膜の中と鼓膜の外との壓力が平均する速度であります。此の百尺十七秒と云ふ速度をモット增大して速くすると、鼓膜が破れる、それで鼓膜を破らずに、而も最も早い速度で百尺を下る速度が二十五米を十七秒間で降ると云ふ條件になるのであります。

斯う云ふ風に海女は自分の、生れながらにして持つて居る所の生理的の、能力の限度を能く利用して、深海の作業を續けることが出來るのであります。

此頃、下關と門司との間の關門トンネルが掘られて居りますが、其場合には水の底にトンネルを掘つて行くのでありますから、トンネルを掘る人は海女と同じやうに水壓を受ける。海女は素手でありますが、水壓を受けないやうにする爲には、潛水函と云ふものを使ふのであります。水の壓力に對抗する爲め、水が入らないやうにして置いて、其の中で潛水夫が岩を剝り拔いて行くのでありますが、其壓力は四〇から四五氣壓と云ふ高壓が工業技術に依つて利用されて、あの關門トンネルが掘られて行くのであります。若し高壓の工事場から出て來る場合に、その減壓の仕方が惡いと、潛水病と云ふものを起して、直ぐ樣痙攣を起して死んでしまう、科學の進歩に依りまして、科學的技術を用ひて、深海に於て新しい生活環境を作つて行つて、トンネルを掘ると云ふ風な技術を進めて行つて、あの海峽にレールを敷くと云ふことが完成されるやうになつて來るのであります。

又溫度と云ふ點から言ひますと、今まで一番高い堪へ得たと云ふ記錄が、私の知る範圍では、華氏百五十度であります。さう云ふ高溫度である華氏の百五十度の所に十五分間我慢して居つたと云ふ男が十八世紀に伊太利にありました。十三分間置けばビフテキが燒けると云ふ溫度であるが、その中に、十五分間素手で我慢して居つたと云ふ記錄があります。亞米利加では四五年前から大きなダムが掘られて居りますが、其ダムを掘る工事は、大體攝氏の五十度から六十度で、勞働者が苦しみ〳〵そんな高い溫度の中で勞働して居つた。さうすると非常に病人が澤山出來た、皆さん東京が三十一二度になると、迚も暑いと言つて居られますが、其工事には五十度、六十度と云ふ溫度の中で苦しみ〳〵働いて其の爲に澤山病人が出來たが、兎に角工事は竣工した。私は昨年の夏八幡製鐵所へ參つたのでありますが、彼處では攝氏六十度の溫度の中でクレーンに乘つて勞働者が二時間作業して居つた。是は私共が日本人に見ることが出來た一番溫度の高い所で長時間働いて居るレコードであります。

斯う云ふ風に工業が進んで行きますと、自然の氣候で吾々が體驗する暑さよりも、非常に暑い環境が殖えて來ます。其の暑い中で、攝氏六十度もあるやうな所で働くのには、どうしたら宜いかと云ふと、暑い所で働いて居りますと、汗が出る、其の汗の中に非常に多量の食鹽が含んで居る。詰り血液の中に、或は身體中に相當澤山の食鹽がありますが、其の食鹽が汗と共に失はれて行く、暑い所で働く爲に起る健康の障碍は、汗と共に失はれて行く、食鹽の量に基くものであります。それだから常に鹽を食つて食鹽の量を補つて行くのであります。一日一人につき約四十瓦の食鹽が體から失はれて行く。其食鹽の補給を怠つて居ると、さう云ふ暑い所では働けないのみならず、多くは健康が破壞されて病氣になる。隨て食鹽を豫め食べて、或は働きながら食鹽を食べることに注意して居りますと、暑い所でも十分に生産能力を維持して働くことが出來るのであります。

さう云ふ風に人間は自分の位置の向上に依りまして、新しい環境を作つて行つて、其新しい環境に又自分が能く其の中で健康を保持して、其生活活動を營むことが出來るやうな能力を持つて來ることが出來るのであります。でありますから人間の能力は無上でない、人間の能力は無限でないのでありますが、而も人間の生活能力と云ふものは頗る豐かなものであると云ふことを私は考へたいと思ふのであります。

我國では國民の平均餘命は最近多少の延長の傾向がありますが、是は必らずしも我が日本民族が生活能力が向上した爲めだとは考へられない。最近の發表によりますと、日本の男子の平均餘命は、四十二歳、同女子は少し長くて四十三歳であります。此事實を目しまして少し宛平均餘命が長くなつて居ると云ふことを目して、非常に日本民族の將來には喜ぶべき現象であると言つて居る人があるのであります。併し長壽延命と云ふことは勿論大切な事である。喜ばしい事であるけれども、唯、長生きすると云ふことの爲には、長生きしてブラ〳〵して居る人間が澤山殖えると云ふことでは、是は人間の能力の尊重さるべき所以ではないと思ふのであります。出來るだけ長い生涯に於きまして、其健康狀態を維持して、其健康に基いて、其生活力を發揮して生産的活動を增强し、文化的活動の質を向上し、高めて行くと云ふことでなければ、唯長壽延命と云ふ事だけでは、喜ぶべき事ではないのであります。此の生活能力を高める爲には、精神的にも、亦肉體的にも豐かな能力を涵養することが必要だと思ふのであります。精神的貧困を排除し、肉體的にも貧困を排除して參りますことが、最も大切な要件だと考へるのであります。精神力を涵養して之を國民的特質に於て保持强化することは勿論國民の生活能力を向上する爲に缺くべからざることであると思ふのであります。精神力、或は意思力其のものは又生命を保持する爲の物質的要件と緊密な關係を持つて居るのであります。貧困が與へます所の物質的貧困——物質の貧困と云ふことは同時に其儘が、私は精神的貧困を招來するものだと考へて居るのであります。又それと同時に精神的貧困と云ふものは同時にその儘が私は精神的貧困を招來するものだと考へて居るのであります。又それと同時に精神的貧困と云ふものは、同時に生活に於ける物質的な貧困であると思ふのであります。是は理論ではなく

して科學的實相であります。隨て貧困の排除は一に人間の生活能力を具體的に向上する力を持つ方法を選ばなければならぬと思ふのであります。

此の精神的及び肉體的の貧困を、國民の中に起して居る原因の一つとして、私は最近の産業技術の發達を擧げたいと思ふのであります。現在の産業技術の發達は一方に於きまして國家の生産力を高めて居りますけれども、他方國民の生活能力を障碍して居る原因であると思ふのであります。今日の工業勞働者、特に非常に重い工業勞働に從事致して居る者の精神的活動の年齢、詰り或仕事に從事してから、最早其仕事に從事出來なくなるまでの年齢限界は三十五歳であります。三十五歳が來ると、最早自由勞働には從事出來ませぬ。四十五歳とか五十歳と云ふ風な壯年の人すら最早自由勞働者の中には居りませぬ。まアそれまでにくたばつてしまう、詰り三十五歳を過ぎると云ふと、重い工業技術に從事して居ります人間は急速に生活能力が低下する。勿論是は大略的の觀測でありますが、モット精密なる科學的方法を行ふならば勞働者の生活能力は、モット早い時期に低下するものだと考へられて居るのであります。今假に一人の人間の職業習熟の年齢を十八歳までとして見る、無論それまでも仕事を致して居るが、十八歳を過ぎると、今度は本當の仕事に、立派な一人前の熟練工として就いて行くものとして勘定を立てますと、前に申しましたやうに、四十歳を先づ其の仕事に就き得る最高の年齢としますと、僅かに十七箇年の間しか働けない、本當に働ける年が十七箇年しかない、斯う云ふ非常に短かい生産的活動年齢を持つて居ると云ふことは、國民全體、國家全體の生産力と云ふことから言ひますと、頗る遺憾なことであります。出來るだけ長い期間を通じて本氣で働けるやうに、精いつぱい働けるやうに一つ職業に出來るだけ長い間就かれるやうな、生活條件と産業技術が整備されて來ることが、國家の將來に取り、特に長期建設と云ふ吾々の當面の目標の下には頃る重要な事であると考へるのであります。人間が持つて居る能力を十分に此の生産力として發揮する爲には二つの要件が必要であると思ふのであります。

其第一は人間の能力を單に一時的ではなくして、其の生涯中の出來る限り長い年月に亙つて思ふ存分に發揮せしむることに努めなければならぬと云ふことであります。

第二は人間が其能力を最も能く發揮し、最も自然に且つ最も能く活用し、それに依つて生活が向上し、仕事の體得に於て其人の人格が高められるのは、其人の從事して居る仕事が其人には樂しみとし、喜びとして體驗せられ、實踐せられて居る場合であると云ふことを國民が能く了得することが必要であります。是は生産力發揮の根本要件であります。

斯う云ふ二つの作業力發揚の生活能力の作業能力發揚を實現して行く爲には、何を吾々が一番考へて行かなければならぬかと申しますと、自然な作業と云ふことであります。自然な生活と云ふことであります。現在の産業技術は機械が中心であります。人間が機械に使はれて居る。機械は品物を造る爲に設計されて、品物を造る爲に動いて行く、其品物を造る機械に人間が使はれて居るやうでは、人間の自然性に從つて生産力を發揮する所以でないのであります。隨て機械に使はれて居る

作業は苦痛の作業であり、苦痛の生産方法であります。さうでなくして人間を主體にして考へ、人間の自然性に於て機械が造られ、人間が機械を使つて行く、人間を支配して居ります自然の方則に悖らない機械が造られて、其機械を人間が使つて、國家に必要なる生産を發揮する爲に、其能力を捧げて行くと云ふ所に、始めて生産に從事する國民としての悦びが生れて來ると思ふのであります。此の過去の時代の科學の興隆に原因して居ります所の生産技術の發展と、其生産技術の持つて居りまする反人間性、非人格性を清算致しまして、新しい健康なる生産技術を創造し、新らしい國民の仕事場を創造し、生産に於ける國民の愉悦を滿喫し得る仕事の道場を建設し、以て生産の向上を促進することが、現代の日本人に課せられて居る最も重要なる課題であると考へるのであります。機械を主にした生産技術を破棄して、之に代ふるに、人間を中心とし、國民の德性に於て、其德性を伸ばし、其德性を保持强化する所の生産技術を創造致しますことが、吾々の任務であると考へるのであります。國民の內部に普遍的に傳承されまして、國民個々の心と、身體の中に繼承されて居る日本民族の遺傳的の資産をして、それを個人々々に於て最上、最善の生活能力として發揚せしめ、國民全體と致しましても亦個人と致しましても、極めて活力的な存在であり得るやう、其發達を可能ならしめることこそ、個々の人間の徹頭徹尾共通した使命であり、又國民全體の聲であると考へるのであります。生活能力を發展完全ならしむる方途は、國民の心と體とが、彼の社會生活に起り來る、あらゆる生活要請に對してよく適應し、而も其分に相應して、其能力に對應完成せしむることにあると考へるのであります。卽ち之を簡單な言葉で言現はしますと、各〻其志を遂げることだと思ひます。而もそれは唯無意識に生活行相に適應するのでなくして、日常の生活行動に於きまして、意識的に國民的自覺を以て之に適應すると云ふことが、卽ち志を遂げて行くと云ふことの內容であらうと思ふのであります。人間の生活能力の適應狀態の最も望ましい態度は、潑剌たる精神の輝きを現はして居る日常の生活行動であります。出來るだけ多數の國民が、出來得る限りの長い生涯を通じても斯る狀態を維持し、其日常生活を營み得ることが、私の最も熱望して居ることであります。併し假令立派な國民的資質が存在しても、亦生活能力が極めて豐かであつても、唯それが能力としてのみ存在してゐるだけでは、用を爲さぬのであります。それが國民の生活行動の上に、卽ち具體的に生活上に現はれなくてはならぬと考へるのであります。卽ち國民の生活行動が價値高き生産行動として現はれ、或は文化向上をもたらす生活行動として、あらはされ、國民生活の向上發展の動力として、如實に其力を發揮する時に、始めて人間の能力の價値の本質が發揮されるのであります。斯くてそれは屢々生物學上で說かれて居る如く、單なる動物的な能力ではないのであります、動物的な適應能力を出して行くと云ふのではなくして、國民としての自覺のある、言換へれば國民的特色に於ける適應能力として是が發揮されて參りますことが、吾々の理想であると思ふのであります。又さう云ふ風に國民の生活環境を整備しながら、國民の能力を培つて參りますことが、此の長期建設に於ける最も重大な問題であると考へるのであります。是が所謂國家の人的資源の

問題の中樞の問題であると考へるのであります。（拍手）

歐米ところどころ

東京帝國大學附屬圖書館長
東京帝國大學教授　高柳賢三

私實は今朝齒を無くしたのであります。一寸椅子に掛けつけて居ると、前齒が見えない。何處へやつたのだらうと思つて調べて見ると入齒が拔けてしまつたのであります。能く考へて見ると、今朝餅を食べた、其餅と一緒に腹の中へ入つてしまつたらしい。私のお話は講演と云ふだけの價値がないのでありまして、「話」齒無しの程度であります。更に惡く言ふと、「落し齒無し」（落噺し）の程度だらうと思ひますから、ごくゆつくりした氣持で暫く御清聽をお願ひ致します。

私は丁度昨年七月十五日に國を立ちまして、歐米を廻つて十二月の二十日に歸つて參つたのであります。其間亞米利加に約一箇月半、歐羅巴に三箇月ばかり居つたのであります。亞米利加と英吉利、佛蘭西、白耳義、和蘭、獨逸、それだけの國をグル〳〵と廻つて歸つて來たのであります。彼地に參りましたのはやはり或意味に於て時局關係の問題に就きまして、色々向ふの人と打合せをする必要がありましたのですが、別にいはゆる「國民使節」として行つた譯ではなかつたのであります。併しどう致しましても斯う云ふ時勢でありますので、吾々と致しましても、東亞の事態が一番

氣に掛るのであります。彼地に參りますと、さう云ふ題目がいつも吾々に對して向けられる質問となり、又こつちの方から言つても向ふがどう云ふ風に東亞の事態について考へて居るだらうかと云ふ斯う云ふ事が心配なのであります。そこで極く短い時間の間に「歐米ところどころ」をお話するのでありますから餘り一つ所に留つて居つてはいけないので、極く簡單に、少しづゝお話したいと思ひます。

サンフランシスコでは、元の大統領のフーヴァ氏と午餐を共に致したのであります。昔からの私の友達である新聞記者のラウエルと云ふ人が、フーヴァと私を晝飯に招んで呉れたためであります。フーヴァ前大統領と色々話をした中で、私は「どうも現在亞米利加の輿論と云ふものが非常に日本に面白くない、是は全體色々な原因もあらうが、何が一番亞米利加の輿論を斯う云ふ風に惡くさすのであるか」斯う云ふ質問を發したのであります。さうするとフーヴァは立ち所に「それは極めて明瞭である、何かと云ふと、日本軍が飛行機から都市爆擊すること、是が一番大きな原因である」と答へたのであります。尤も日本軍は國際法規に遵つて、堂々と空爆をやつて居るのであつて、日本軍の準據して居る法規は、大體に於て一九二三年のヘーグの專門會議で決めた決議が基礎になつて居るやうであります。世界の國際法學者が是が宜いと云つて推薦した所が大體基礎となつて爆擊が行はれて居るのであります。でありますから條理の上から申しますと、やり方として少しも非難を受けるべき筋合のものではないのであります。しかしそこには條理を超越したあるものがあるのであります。一體に亞米利加人一般は東洋の事態に對しては認識が餘りない、又餘り注意もしない、遠くの所で支那人と日本人が戰爭して居るが、吾々には何も大して影響のあることではない、斯う云ふやうに考へる人が大部分なんです、尤も都會の人は幾らか多く國際問題に就て關心を有つて居りますが、田舍にでも行かうものならば東洋の事など大した問題でない、斯う云ふ狀態になつて居るので、日本が勝つても支那が勝つても、さう云ふ事は割合無關心だと云ふ斯う云ふ風な氣持の人が大部分であります。處がさう云ふ人でも新聞を見ると日本軍が支那の街に爆彈を落して、其爲に支那人の非戰鬪員が何人死んだと云ふことがデカ〳〵と出て居ると、それらの人の感情を非常に激化させるのであります、それらの人は爆彈を頭の上から落されることが非常に怖い、條理から言へば大砲で攻擊される場合と、上から爆彈を落される場合とで、どつちが怖いかと云へば大砲で擊たれる方が怖い譯でせうが、何んとなく上から爆彈を落されると云ふのが怖いように感ずるのであります。だからどうも日本人が爆彈を落して非戰鬪員を殺したといふニュースが來ると亞米利加の輿論が著しく惡化して行くのだから、是は日本人として注意して行くが宜いと云ふことをフーヴァ大統領は說明したのであります。かれの云ふ處にも一面の眞理が含まれて居ると思はれるのであります。米國の一般民衆の東亞の認識はさう云ふ程度であります。尤も例へば紐育のウォールスツリートあたりの資本家連中、金をウンと外國に投資しようと云ふ人達の頭の動き、それから華盛頓の政治家の考へ方、それから或は勞働組合の人達の考へ方、或は若い學生の氣持、さう云ふやうなもの

は、これら一般大衆の考へとは違つて居りますので、理窟で以て物を考へる人達にはそれ〴〵自己の立場から國際問題をも考へると云ふ傾向があるのでありますが、一般の人はさう云ふ理窟でなくして、頭の上から爆彈を投げられて、斯うしてやられると云ふやうな所が、一番強く響く、さうしてさう云ふことが、感情的に米國の輿論を作つて行くのでありますから、さう云ふやうなことが非常に重要な點を成すのであらうかなといふやうなことを熟々感じたのでありました。尤も東亞の事態よりも亞米利加人は歐羅巴の事態と云ふものに非常な關心を持つて居る。一般亞米利加の見地から云ふと、獨逸と伊太利とを眼の讐だと思つて居る。日本はさう大して眼の讐と思つては居ないが、殊に獨逸、伊太利に對する恐怖心と云ふものは非常に強いのであります、そこで日本は獨逸、伊太利と與んで一つの樞軸を爲すと云ふことになつて來ると、日本の姿が全然違つた背景の下に亞米利加人の頭に映ずることゝなるのでありますが、兎に角一般アメリカ人は歐羅巴に對する問題には非常な關心を持つて居りますが、東洋の問題に就ては一體持つて居ないといへるのであります。尤も色々な干係から亞米利加人は、大體今度の事變については日本には良くないのであることは勿論であります、尤も今まで友達であつた日本人とも話をしないなどと云ふやうなことはありませぬ。友達は皆能く來て呉れたと言つて歡迎をして呉れる、併ながら一體の空氣は極めて面白くないのであります、けれども亞米利加人自身が、干渉して來るかと云ふと、そう云ふやうなことはそふ急には歐羅巴に對しても東洋に對してもないだらうと見られてゐます、尤も經濟壓迫と云ふやうなことは相當に行はれるかも知れませぬけれども、戰をしようと云ふやうな事には中々亞米利加の情勢としては出來にくいのであります。亞米利加は割合に歐羅巴の政治的の緊張と云ふものから離れて、平和的な一つの空氣が今でも強いのでありまして、歐羅巴あたりで迫害を受けた人達が、皆亞米利加へ來て其處で以て大いに生活の途を開いて行かうと云ふ傾向が非常に強い、卽ち猶太人排斥の結果、物理學者のアインシュタイン教授、文學者のトーマス、マンなどと云ふ一流の人物が段々亞米利加へやつて來てゐる。歐羅巴の偉い學者が亞米利加へ入込んで來ると云ふことが、將來亞米利加の學問にどう云ふ影響を及ぼすかと云ふことは興味ある問題だらうと思ひます。兎に角歐羅巴の大學あたりでも中々研究が困難であつて、何時、戰爭が始まるか分らぬといふ念にかられてゐるのでありますが、亞米利加は餘程離れて居る關係上、學問の方も割合暢氣に行はれるのであります。其最も顯著なものと致しましては、今度の紐育の博覽會で「五千年後の考古學者への贈物」と云ふ隨分突飛な企てがなされて居ります。是は亞米利加のウエスチングハウスと云ふ電氣會社が二十世紀の文化殊に亞米利加の文化と云ふものを回顧して、あゝ斯う云ふ風であつたかと云ふことを、五千年後の考古學者に分るやうにしようと云ふことを企てたのであります。五千年と云ふのですから、是は大變な長い事であります。そのために「タイム・キャプシュル」と云ふ筒を造つた。キャプシュルと云ふのは水雷型の筒でありますが、タイムと云ふのは時間の腐蝕作用にたへると云ふことであります。從てこれは「萬年筒」と云ふ風に意譯できると思ひます。兎に角このタイム・キャ

プシュルを紐育の博覽會の敷地の中に埋めたのであります。第一其容器は五千年經つても腐らない物でなければならぬ。之には科學者の知識を集めて、銅を主成分とする合成金の容れ物としたのであります、第二に亞米利加の現代文化を五千年後に、しかも限りあるスペースの中に遺すにはどう云ふ物に記して遺したら宜いかと云ふ問題がある、それには永續性のフイルムが宜いといふことになつた。之にすつかり現代の文化を記錄して、それを傳へることになつたのであります。丁度本にすると七十冊位の分量の記錄がフイルムの中に納つたのであります。この分は現在の生活のあらゆる斷層面を記述したものであります。そして第三に資料の選擇については多くの學者が協力したのであります。尙ほフイルムの中には現在の映畫ニュースのやうなものも入つて居る。例へばエール大學とハーバード大學のフットボールの競爭であるとか、オリムピック競技、或は大統領ルーズベルトが演說をして居る所、或は日本海軍による廣東爆擊の狀況などまで入つて居る。さう云ふものも收め、それから現代の文化の中で最も特色ある物品として「パイプ」や「女の帽子」なども入れたのであります。さう云ふ「時間筒」を拵へるに就てあらゆる學者、すなはち、自然科學、及び文化科學兩方面の學者を網羅して拵へたのであります。兎に角之を五千年の後に開くと、二十世紀文化の情況が分るやうに出來て居るのであります、其の中に二冊の本が入つて居る。そして本は二冊しか入つてゐない、一つはバイブルであります。そして他の一冊は時間筒を解說した書物であります。この解說は靑い色のクロッスの表紙に金の細い帶を引き、其の中に「タイム・カプシュル」と云ふ文字が入れてあります。此の解說を何部か拵へて、之を世界各國の主な圖書館、博物館に一部づゝ寄贈した。それと同じものが時間筒の中に入つて居るのであります。そして其の一部は東京帝國大學附屬圖書館に寄贈されました。我圖書館と致しましては、之を貴重書として取扱ひ大切に保存することゝしたのであります。さうして或は五千年後頃になつて、世界各所に寄贈された書物が皆消失してしまつて、東京帝國大學だけにこの本が一冊殘つて居ることが分り、それが手蔓になつて紐育の地下から、時間筒が發見されると云ふようなことにならぬとも限らぬ。又さう云ふ事を見越し、五千年後何處かから一冊位出て來るだらうと、世界各國の圖書館に保存を依賴したのでせう。さう云ふ五千年の將來といふ暢氣な事が考へて居られるのが亞米利加の學者である。獨逸、英吉利、佛蘭西、伊太利などの學者は仲々そんな事を考へては居れない政治的情勢にある。モウ少し現實に密接した事項を考へて居らなければならぬのであります。其處に歐洲と亞米利加と一種異つた空氣があるのであります。亞米利加の保守的政治思想から云へば、亞米利加が世界戰爭に卷込まれてしまうと云ふことは是は宜しくない、何處までも、歐羅巴からも、亞細亞からも孤立して、戰爭に卷込まれないやうにする、さうして亞米利加を、今後平和的な文化地域として發展させて行かうと云ふのであります。卽ちそれがアイソレーショニストの文化思想なのであります。

次に歐羅巴へ參りますと、歐羅巴は亞米利加とは違つて、政治的の狀勢が著しく逼迫して居ります。私は獨逸には一週間伯林に居つただけでありますが、獨逸は亞米利加やそれから又英吉利、佛

蘭西などに比べると、日本人にとつて全然別世界であります。亞米利加などでは活動寫眞と言へば、何時も我々が見て不愉快な感じのするニュース映畫が事變關係については出て來る、所が獨逸に於きましては日本人に對して非常に好感をもつ活動寫眞が、ニュース映畫として現はれて來るのである。又會ふ人間も盟邦と云ふやうな氣持で、非常に日本人には宜しい。又ヒットラー總統の人氣は大したもので、活動寫眞などでもヒットラー總統が映ると大喝采であります。普通の獨逸人から見るとヒットラー總統は一の救世主である。元來獨逸人は非常に能力のある天分の豐かな國民である。所が國際政治的には何時も力を伸ばして行くことの出來ない情勢に置かれてゐた、少し頭を持上げると、先進國、英吉利、佛蘭西と云ふやうな國から、いつも頭をおさへられる。殊に世界大戰の時にガンとやられてしまつたので、怨み骨髓に徹してゐる、さう云ふ氣持の獨逸人にとつて、羈絆を絶ち切つて、獨逸人の能力を何處までも發展させようと云ふ、ヒットラー總統の政策は快心事なのであります。大多數の獨逸人は之に對して、拍手を贈るのは當然であります。又親しく世界大戰の屈辱をなめたお婆さんなどがヒットラー總統が來ると、感極つてハンケチで眼を拭いて泣いて居るのをよく見ました。さう云ふ一種の國民的感激の中にヒットラー總統は動いて居る。兎に角獨逸國民を築上げて行かなければならぬ。獨逸人の豐な天分を政治的經濟的に助長して行かなければならぬ。斯う云ふ一つの氣持が、ヒットラー總統に對する非常な人氣を呼起させるのだらうと思ひます。ナチス政權の下においては教育なども大分變つて大學の教授要目など見ましても、前とは余程變つて來て居るのであります、その一つは國史と云ふものを重んずる傾向が非常に強くなつて居ることであります。私は法科の方でありますけれども、法科の方では古代ゲルマンの法律を研究する者が增加して居る。兎に角自國の歷史の研究と云ふものが非常に強くなつて來て居るのであります。それかと云つて國粹だから自分の國の事だけを研究して、外國の事は研究しないと云ふのではなくして、外國の事も非常に能く研究し、又在外研究員などを盛んに外國に出し、常に新しいものを吸收することを怠つてはゐないのであります。大學でも、世界各國法の研究家が熱心に研究して居る。東京帝國大學には英佛獨の三箇國の法律の講座しかないが、ナチス政權の下における獨逸では數多くの外國法の講座があるのであります。これはやはり獨逸を本當に守り且つ育て上げて行くには、獨逸の研究だけでは駄目だ、各國の正確な知識を持たなければ駄目だと云ふのがナチス教育家の考へ方であらうと思ふ。かくナチス政權の下に外國の研究が非常に盛んになつて居ることは、或意味に於ては意外でありますが、或る意味に於ては當然であります。

次に猶太人と云ふものは非常に獨逸では壓迫されて居る。伯林の街を歩きますと、猶太人の店は白い線で窓ガラスがぬられてある。此の店は猶太人の店だと云ふ印である。その店へ行つて買物をするなと云ふ意味で、白いペンキが塗つてあるのであります。けれども猶太人も亦さる者で、他の店より少し勉强して安く賣る、誰しも安い方へ行つて買ふから、猶太人の店でも中々、はやる店もあると云ふ譯であります。又官界からも猶太人は大分排斥されて殆どゐなくなりつゝあるやうであり

ます。伯林大學の先生などでも、猶太人でやめられた人が、私の元知つて居つた人のうちにもあります、尤も官吏の場合は、恩給と云ふものが附くので、長く勤めた先生などには八〇%の恩給を貰つて居るものもあるから生活には困らないと云つて居りましたが、是などは日本よりもずつと良い譯で、吾々が大學から退いても八〇%の恩給などは中々貰へない、失職者の中で一番困つたのは辯護士、醫者、藝術家などと云ふ自由職業であります。さう云ふ者は恩給などはないから、覿面に職を失つて生活に困つて居るものが多いさうである。尤も私の行つたのは、獨逸が昨年の秋大いに猶太人をやつつけた前でありましたが、歸途十二月英吉利から亞米利加へ渡る佛蘭西の船には猶太人がいつぱい乘つて居て、何れも亞米利加へ行つて何か職を求めたいと云ふ者であつた。是等の人は個人的には洵に氣の毒である、今の獨逸の政策の犠牲者となつて居る譯であります。或る私の友人は裁判官をして居りましたが、此の人のお父さんは有名な獨逸の偉い法律學者であつて、其の人は丁度世界大戰中に亡くなりましたが、此の人の文庫は個人の文庫としては獨逸で一番良い法律文庫でありました。當時私が獨逸に居りましたので、此の人の文庫を五萬圓ばかりで買入れることが出來ました。それは當時巴里に居られた織田昇次郎氏が金を出すからといふので、伯林に居た私がその購入の世話をして持つて歸つたのでありますが、是が東京帝國大學の方に寄贈されて、整理が濟んだ時に、震災が起つてすつかり燒けてしまつたのであります。そんな關係でこの人は非常に日本とは緣故がある譯なのであります。其學者の孫娘さんが結婚したいと云ふのだが中々許可が降りない、尤もその父は自分も、お父さんも、お母さんも猶太人ではないが妻君が猶太人である、隨てその母から生れた娘さんは所謂半猶太人卽ちハルプ・ユーデンである。さう云ふのは純粹の獨逸人と結婚することが出來ない、唯特別許可があれば出來ることになつてゐる。そこで數多の學者などの證明書があつて、祖父は獨逸の法律學の價値を世界に高からしめた人であつたからといふ理由で特許を得ようとしたが、中々得られない、そこでヒットラー側近の人で、元祖父のお弟子であつた人が、非常に奔走して其のお蔭でやつと特許が得られたと云ふことを聞いたのであります。猶太人の問題に就て、よく英吉利や亞米利加で怪しからんと云つて、强い非難が起ります。さう云ふ場合、君は此問題をどう思ふかとよくきかれたのですが、私は「是は僕は個人的に餘り面白いこととは思はぬ。併し亞米利加人や英吉利人などが、全體人種的差別待遇に就て文句を云ふ道德的權利があるのか、第一彼等は東洋人をウンと移民問題等で排斥したぢやないか」と云つて答へたのです。

次は佛蘭西であります。巴里へ參りましたのは、丁度九月末で、チェコ問題で戰爭が起るかどうかと云ふ危機の際でありました。巴里は戰爭の話ばかりで一杯でした。サンジェリゼーの大通りでも、すつかり戰爭の恐怖で夜などは消燈で危なくて歩けない。自動車も大部徵發されて、なくなつてしまつた。日本大使館あたりでも在住日本人になるべく國外へ去るやうにとすゝめるやうな譯でありました。丁度此間亡くなられました杉村大使が病氣靜養から巴里へ歸つて來られて、一夕大使官邸で晩餐を御馳走になつたのであります。同大使は中々大きな躰軀をして居られた、目方が病氣

で十貫目減つて二十二貫になつたといふのでありますから相當なものです。十二時頃まで例に依つて獨りで元氣に話をして呉れました。其の時も戰爭の話で、或は戰爭になるかならぬか――電話が始終大使に掛つて來る。佛蘭西と獨逸が戰爭をしたら、佛蘭西は直ぐ敗けやしないかと云ふ話も出て、大使はイヤそんな事はあるまい、佛蘭西人も中々強いだらうと云ふ意見でした。それに關聯して杉村大使はフォッシュ將軍との對話を話された、フォッシュ將軍は「戰さをする場合には單に物質的設備だけでは強い兵隊は出來ない、やはり傳統の力と云ふものが必要である。例へば佛蘭西の兵隊が強いのは、ナポレオンの姿が何時も背後に控へて居るからだ、英吉利にはウエリントン將軍がある。さう云ふ傳統のないのはどうも精神力に於て劣る傾向がある」と云ふと、杉村大使は「日本では昔戰場に出た場合に武士名乘りを上げたものだ、例へば我こそは桓武天皇何代の後裔……」と答へると、フォッシュ將軍は「其處まで行けば最も徹底して居る。一人々々が自分の祖先には斯う云ふ偉い人があつたと云ふので元氣が付いて來る。其處まで行けば軍事的精神が徹底して居る」と大いに感歎したと云ふのであります、兎に角その晩は殆んど戰爭の話ばかりで終つたのであります。

それから私は英吉利へ參りました。英吉利では丁度十一月の十一日の日が、世界大戰の休戰記念日で、今年が二十年目に當る、之を英吉利では「ポッピーデー」と申します。ポッピーと云ふのは「罌粟の花」で、此の日は街頭でも料理店でも、罌粟の花を賣る女の人が集ります、彼女らは或は一志或は一志六片と云ふ金で罌粟の花を賣つて居るのでありまして、此日に罌粟の花を持つて居ないと、肩身が狹いと言ふ譯で、勞働者から、乳母車に乘つた乳兒まで皆罌粟の花を着けて居ます。なぜ罌粟の花を着けることにしたかと聽いたら、それは戰爭のため人間の造つたものが皆壞はれてしまつた。併しながら十一月の野邊には罌粟の花は昔からの姿で咲き亂れて居る。さう云ふ所から罌粟の花を「平和の象徴（シンボル）」にしたのだと云ふ話でありました。それで其の罌粟の花の賣上金で廢兵を養ふ資金とするのです、丁度一昨年の上り高が約一千萬圓程でありまして、罌粟の花も馬鹿に出來ない、世界大戰に出た人もその頃は若かつたがモウソロ〳〵年を取つて來た、さう云ふ人の爲に使ふ金を集めるのであります。此の休戰記念日でありましたが、英吉利の議會の附近のパーラメントストリートに無名戰士の碑が建つて居る、そこで儀式が行はれたのでありまして、皇帝陛下を始めとして、チェンバレン首相其他大臣等が皆集つて十一月十一日午前十一時を期して二分間の默禱をするのであります、其の時に集つて居る人は、若い青年が多かつたことが眼に付いたのであります。如何にも今は戰爭の危險は去つたけれども、どうもいつか又起りはしないかと云ふ空氣が漂つて居つて、之に對して英吉利の青年が、無名の戰友と同じく勇敢に戰つて貰ひたいと云ふ氣持が英吉利に漲つて居る。かくして歐洲の天地は相當に戰時氣分が濃厚になつて來て居るのだと云ふことが感じられたのであります。

十月十九日から二十二日まで白耳義で著作權に關する專門家の會議が開かれ、私に日本政府から專門委員として其會議に出るやうにと云ふ電報が參つたので、私はこの會議に出て行つたのであり

ました。此の會議の目的は著作權に就ての世界統一條約案を作ることでありました。それを作るに就て日本側として色々な注文がありましたが、其中で最も重要なものは、西洋語と東洋語の間の飜譯の絶對的自由を條約案の中に規定しようと云ふ主張でありました。是は中々難しい注文なのでありますが、東洋と西洋との間における飜譯の絶對自由と云ふことを條約案中に入れるやうに努力しろと云ふ譯であります。それから私はその根據につき色々考へた上で會議に出て議論をしたのであります。第一現在ではどうなつて居るかと云ふと、ベルン條約で、十年經てば宜いがそれまでは英吉利、佛蘭西、獨逸などの著書を日本語に飜譯するには一々著者の許可を必要とする、それを全部絶對に自由にしてしまはうと云ふのが日本側の主張であります。そこで東亞諸國の間では飜譯が自由になつて居る。日本と亞米利加との間の條約でも飜譯は相互に自由たるべしと云ふ條項が這入つて居る。遲羅と亞米利加の間も、支那と亞米利加の間もそうなつて居る。支那とソヴエート露西亞はベルン條約に這入つて居ないから日本とそれらの國の間も飜譯が自由であります。處が歐羅巴と日本との關係に於ては自由になつて居らない。そこで私は飜譯の自由に關する條約を作るなら東亞の文化的要請を無視してはならぬ。統一案を見ると歐羅巴大陸の著作權法と亞米利加大陸の著作權法とを統一しようと云ふ意圖であるやうに見える、それは結構なことである。併しながら苟も世界統一條約を作る場合に於ては亞細亞大陸と云ふものを忘れてはならぬ。飜譯自由についての亞細亞の強い要請と云ふものを、之を統一條約の中に織込まなければ眞に世界的のものとはならぬと云ふ論據を提出をしたのでありますが、其議論が非常に傾聽されたのであります。それは變りつゝある世界の政治的事態と云ふものが、さう云ふ議論を傾聽させるやうにさせたのであらうと思ふのであります。兎に角將來は日本はやはり東亞の兄貴分として、弟分の爲に色々世話をしてやらなければならぬ。この會議には支那は出てゐない、遲羅もゐない、日本だけであつた。日本は日本國家だけの見地から議論すると云ふのではいけないので、やはり支那のことも世話をしてやらう、遲羅のことも考へてやらう、東亞の事態と云ふものに就ては兄貴分として大いにその要求を考へてやらう、兄貴分として大いにそれらの國の正當なる權利を何處までも主張してやらうと云ふ氣持で行かなければならぬのであつて、恐らく將來の國際會議に於て、さう云ふ場面が非常に殖えるのぢやないかと思ふのであります。我國も東亞の新秩序と云ふものを作る爲に現在大いに努力して居るのでありますが、それについて、特に重要な點と思ひますのは、こう云ふ廣い心境であります。從來日本の文化を見ますと、儒教佛教等を吸收して、日本の生活にピッタリ合つた一つの文化形體を歴史的に作上げたのであります。又西洋からも色々の文化を最近には採入れた、其の文化も大體に於て日本に合ふやうなものを採入れて居るのであります。これは我國の誇とすべき點であります。併しながら來るべき新しい時代に於ては事態は異るのであります。例へば商品等に就ても日本から益々世界に賣らなければならぬ。又東亞の兄貴分として立たねばならぬ、さう云ふ環境の下に於ては、日本の國民性を

更に淘冶して行かないと、日本は發展出來ない。又そうしなければ東亞新秩序は作れないのであります。支那を文化的に指導するに氣宇を大にする必要がある、支那の本當の活きた生活を研究して掛らなければ東亞の指導は出來ない。さう云ふ譯でこれからは東洋の事を如實に研究する、丁度明治の學者が西洋の事を一生懸命に研究して相當に西洋の事が分つて來たと同じやうに、東洋の事を忘らず十分研究して其上に東洋の文化を築上げて行く。其の築上げて行く上には或程度我傳統的な國民性を捨てなければならぬ。指導して行くにはやはり自己を捨てなければならぬのであります。さう云ふ捨身的態度で指導しなければ東亞の文化を作上げるなどいふことは空想に終つてしまうのであります。右に述べたやうに現代世界の情勢は、相當日本に惡くなつて居ります。併しさう云ふ時代を背景としつゝも我日本が根本に於て自己の正しい方面に進んで行くと云ふ充分の反省と確信との下に、正々堂々と精進すべきものと考へるのであります。こゝに諸君に對しそれぞれの職務について十分自重せられんことを希望しつゝ此の「落し噺」を終る次第であります。（拍手）

本輯は昭和十四年四月二日、神田區一ツ橋・共立講堂に於て開催したる文部省並に本協會共同主催の圖書館記念日講演會に於ける講演速記錄を講演者の校閲を經て印刷に附したものである。

昭和十四年九月二十七日　印刷
昭和十四年十月　一　日　發行

編輯兼發行者　社團法人　日本圖書館協會
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷者　馬場巳之吉
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所　大日本印刷株式會社

發行所　東京市麴町區富士見町三丁目四番地文部省内
社團法人　日本圖書館協會
振替東京二四一八一番

終